

パンクチャード畳込み符号による誤り訂正方式

デジタル方式において高品質の伝送路を効率的に実現するために、誤り訂正技術は必要不可欠である。1981 年（昭和 56）、符号化率 $R=1/2$ の畳込み符号をもとにして、パンクチャード符号を構成し、ビタビ復号を適用する誤り訂正方式を考案、開発した。このパンクチャード符号・ビタビ復号は、インマルサット標準 B および M システムをはじめ、インテルサット IBS (INTELSAT Business Service)、IDR (Intermediate Data Rate) においても仕様化され、以後広く用いられている。衛星通信以外でも、第 2 世代セルラー移動通信やデジタル衛星放送にも適用されている。

出典：KDD 社史